

# 令和2年度事業報告書

特定非営利活動法人 WE21 ジャパンこうほく

## 1 事業の成果

新型コロナウイルスの世界的流行により、2020年度は、4～5月はほぼ休業、6月と1～3月は時間短縮営業を余儀なくされ、感染対策に追われた一年でした。

稼働率8割弱のショップに地域の人たちが訪れて買い物や情報交換をし、地域の居場所、交流の場としての役割を果たすことができました。来店人数を制限した影響はありましたが、稼働率に近い事業高を得ることができ、加えて公の給付金や助成金を受けることができ、2019年度とほぼ同じ収入を確保できました。

民際協力事業は、他地域NPO主催のオンライン報告会などで支援団体の活動の現状を知ることができました。初めて指定寄付に取り組み、大勢の方から共感を得ることができました。

日吉店10周年をボランティア全員参加で地域の人とともに祝いました。

## 2 事業内容（特定非営利活動に係る事業）

### I. 資源のリユース・リサイクルを推進する事業

#### 1) ショップ事業

##### (1) 大倉山店

- ・内 容 リユース・チャリティショップ運営
- ・日 時 通年 営業日数 245日
- ・場 所 横浜市港北区大豆戸町6 0-1
- ・従事者人員 ショップマネージャー3人、ボランティアスタッフと運営委員 22人（延べ 573人）
- ・受益対象者 市民 主に港北区南部・鶴見区
- ・寄付件数 1,731件
- ・事業高 5,458,711円
- ・支出額 6,729,428円

##### (2) 日吉店

- ・内 容 リユース・チャリティショップ運営
- ・日 時 通年 営業日数 245日
- ・場 所 横浜市港北区大豆戸町2-1 2-7
- ・従事者人員 ショップマネージャー2人、ボランティアスタッフと運営委員 36人（延べ 1,114人）
- ・受益対象者 市民 主に港北区北部・川崎市
- ・寄付件数 1,958件
- ・事業高 5,974,994円
- ・支出額 6,166,997円

## 2) 環境活動

7月1日から容器包装リサイクル法が改正され、レジ袋有料化が始まりました。エコバッグ・マイバッグ持参の呼びかけとポリ袋や梱包材の廃止はかねてから店頭で推奨していましたが、顧客にも環境問題の意識と理解協力が推進され、紙袋の使用も減りました。

両店で衣類やガラス陶器のリサイクルなど行いました。ガラス・陶器は寄付受付時の対応により廃棄量を減らすことができました。

	大倉山店(前年比)	日吉店(前年比)	備考
ファイバー (衣類リサイクル)	384 袋 (67.5%)	222 袋 (91.4%)	コロナ禍でも回収・利用 されました
ガラス・陶器の リサイクル	ガラス 7 箱・陶器 11 箱 (81.8%)	ガラス 4 箱・陶器 12 箱 (80.0%)	毎月1回の回収で、 再利用されました。
可燃物・不燃物の 廃棄費用	82,390 円 (96.1%)	62,425 円 (92.4%)	寄付件数の減少で 減りました

## 3) リメイク活動

ボランティアで構成される3つのリメイクチームと連携して、販売できなかった寄付品等を利用したリメイク活動を行いました。緊急事態宣言期間中は集まったの活動は休み、それ以外の期間は感染防止対策をしながらそれぞれのチーム内でメンバーが集まって活動しました。

## II. アジア等における市民、とりわけ女性の生活の向上と自立のための活動を支援する事業（民際協力事業）

収益からの支援額については、運営委員会で支援検討会を開催し、決定しました。なお、新型コロナウイルス感染拡大により計画修正したプロジェクト（下記（1））については、送金が次年度にずれ込むことになりました。

2020年度総支出額 1,250,087 円（未送金分含む決定総額 2,013,682 円+650 ドル）

### 1) 海外支援 合計 876,852 円（未送金分含む決定総額 1,640,447 円+650 ドル）

#### （1）農業センターを拠点とした（活用を通じた）農業技術指導による生計向上プロジェクト

・実施団体 カンボジア NGO CAE (The Center for Actions towards Equality)

・プロジェクトの対象となる地域及び人々

カンボジアスバイリエン州コンボンロー郡タナオコミュン 429 世帯

・支援額 2020 年度の収益金による 2020 年度後半活動への支援額 650 ドル（年度内未送金）

2020 年度の収益金による 2021 年度事業への支援額 500,000 円（同上）

指定寄付 258,000 円（同上）

店頭募金 5,595 円（同上）

・プロジェクトの概要

農業組合の支援、農業技術指導、若い農家の育成支援、最貧困世帯の子どもたちの支援、ネットワーキング活動などを行なっています。新型コロナウイルスの感染拡大により、農業センターが隔離施設として使用されることになり、現在は本プロジェクトのために利用できませんが、計画を修正しつつ最終目標を見据えて活動しています。

#### （2）有機農業の発展を通じたゆたかで幸福なコミュニティの構築

・実施団体 緑の芽有機農園学校

・プロジェクトの対象となる地域及び人々

カンボジアタケオ州、カンポット州、コンポントム州有機農家

・支援額 2019 年度の収益金による 2020 年度事業への支援額 300,000 円

2020 年度の収益金による 2021 年度事業への支援額 200,000 円

- ・プロジェクトの概要

小規模農家と消費者の生活を向上させる目的で、開拓的有機農家と協力して実施するプロジェクト。有機の米・野菜・ピーナッツ・胡麻・コーヒー・胡椒を栽培する300人の有機農家支援を計画し、有機農産物基準にそって作物を生産し、それらの市場参入が容易になるよう支援しています。2月に調査のため現地訪問した米倉雪子さんの報告会に参加。有機作物で農家と消費者が結ばれ、出稼ぎせずに生活できる農家が増えていること、支援金が有効に活用されていることが報告されました。

(3) チョコ募金キャンペーンを通じたイラク・シリア・福島支援

- ・実施団体 NPO 法人 JIM-NET (日本イラク医療支援ネットワーク)

- ・プロジェクトの対象となる地域及び人々

イラクにおける小児がんの子どもたち、シリア難民・イラク国内避難民、福島の子どもたち

- ・支援額 421,852 円 (チョコ募金 308,900 円、収益金からの支援 100,000 円、店頭募金 12,952 円)

- ・プロジェクトの概要

イラクの小児がんの子どもたちへの医療支援、JIM-NET ハウス (小児がん総合支援施設) の運営、イラクに逃れてきたシリア難民妊産婦・子ども支援、イラク難民キャンプでの支援、福島の子どもたちを放射能から守る活動への支援を行っています。

- ・コロナ禍の困難ななかで、日本のスタッフが現地入りできない間、クラウドファンディングで資金を募り、イラクスタッフが中心となり病院へ消毒液やマスクなどを届ける活動をしたり、JIM-NET ハウス運営に努力し続けていることが、ネットでの「報告会」で紹介されました。

(4) ミャンマー地雷犠牲者への義足支援

- ・実施団体 NPO 法人地雷廃絶日本キャンペーン (Japan Campaign to Ban Landmines)

- ・プロジェクトの対象となる地域及び人々

ミャンマー、カヤ州での地雷犠牲者 50 人 (目標)

- ・支援額 100,000 円

- ・プロジェクトの概要

ミャンマーはアジアの中でも犠牲者が最も多い国です。現地パートナーの KNHWO (Karen National Health Worker Organization) が、受益者のカウンセリングから義肢の製作までの一連の作業を実施しています。

(5) その他 コーヒーの森づくり事業継続に向けての支援

これまでのプロジェクトは2019年度に終了しましたが、現地では事業の独り立ちがまだ難しい状態の中、新型コロナウイルス感染拡大による影響を受け、事業縮小やスタッフ削減を余儀なくされました。現地事業継続のための支援を行いました。

- ・実施団体 フィリピン NGO コーディリエラ・グリーン・ネットワーク (CGN)

- ・プロジェクトの対象となる地域及び人々

フィリピンコーディリエラ地方ベンゲット州トゥブライ郡アンバサダー村コロス集落、および、タビヨ集落 (45 世帯)

- ・支援額 2020 年度の収益金による 2020 年度事業への支援額 50,000 円  
指定寄付 105,000 円

- ・2019 年度までのプロジェクトの概要

台風被害が残り、森林が失われている地域に現金収入となる作物を混栽し、環境に配慮した森づくりを行うことで、持続可能な森林再生・災害防止・生活向上を図るためのプロジェクト。2019 年度は住民組織 MOAPA の組織強化に力を入れ、①トレーニング実施②倉庫の建設③乾燥施設の追加材料提供④ Cooperative Development Authority (CDA) の協力組織として登録⑤コーヒー業界に参入している成功した協同組合・組織訪問をおこないました。

## 2) 国内支援 合計 373,235 円

### (1) 横浜山北リフレッシュプログラム

- ・実施団体 福島子ども・こらっせ神奈川
- ・プロジェクトの対象となる地域及び人々 檜葉町やいわき市周辺に住んでいる子どもたち
- ・支援額 0 円

今年度はコロナ感染防止のため、保養と交流の実施は中止となりました。

### (2) 寿町生活困窮者自立支援

- ・実施団体 1、寿炊き出しの会 2、寿町越冬闘争実行委員会 3、寿地区センター
- ・プロジェクトの対象となる地域及び人々 寿町地域並びに近隣居住者・横浜市内の野宿生活者  
(新型コロナウイルス感染拡大により職住等の行き場を失った人々を含む)
- ・支援額 1、寿炊き出しの会 54,984 円 (収益金 9,800 円、指定寄付 30,000 円、店頭募金 15,184 円)  
2、寿町越冬闘争実行委員会 10,000 円
- ・プロジェクトの概要

横浜市中区寿町地域並びに近隣居住者、障がい者、高齢者、野宿生活者等を対象に「寿地区センター」「炊き出しの会」等地域の支援団体が連携し合って炊き出し・バザー開催、訪問活動、医療・法律・生活・労働の相談活動を行っています。今年はコロナ禍の影響で新たに職住等を失った人たちにも、特別給付金受領や生活保護申請手続きへのサポートが行われました。こうほくからは上記2団体（1および2）への支援金のほか、寿地区センターにはバザーへの参加と衣類とマスクの寄付を行い、越冬支援炊き出しに参加し諸支援団体や地域の人との交流を通して地域の課題の理解に努めました。

### (3) 放射能測定と医療活動支援

- ・実施団体 認定 NPO 法人 いわき放射能市民測定室 たらちね
- ・プロジェクトの対象となる地域及び人々 いわき市及び原発事故被災地住民
- ・支援額 261,292 円 (収益より 250,000 円、店頭募金 11,292 円)
- ・プロジェクトの概要

福島第一原子力発電所の事故による被曝の被害から子どもたちと地域の人々の健康と暮らしを守る活動を継続しています。ホットスポットファインダーを使い、移動しながらの測定で、瞬時に地図情報上に空間線量マップを自動作成したり、電解濃縮装置を導入して、トリチウム測定の下準備の時間を大幅に短縮し、測定件数を増やす等しています。

### (4) 3. 1 0 東日本大震災かながわ追悼の夕べ 支援

- ・実施団体 3. 1 0 東日本大震災かながわ追悼の夕べ実行委員会
- ・支援額 10,000 円
- ・プロジェクトの概要

神奈川に避難してきた人々と、東北につながるとうする神奈川の人々とともに開く追悼の場の開催に賛同しました。10年の節目に支援継続の呼びかけが行われました。

### (5) 「福島原発事故 10 年—私たちはどこへ向かうのか」への支援

- ・実施団体 福島原発事故 10 年実行委員会
- ・支援額 10,000 円
- ・プロジェクトの概要

原発事故の 10 年を振り返る企画と講演会です。2021 年 3 月開催の計画が、会場が新型コロナ緊急事態宣言延長により使用できなくなり、8 月に会場も変更し開催することになっています。

日時：8 月 10 日（火）～15 日（日）午前 10 時～午後 5 時

会場：オルタナティブ生活館（新横浜）

#### (6) その他 子どもの生活支援

- ・実施団体 特定非営利活動法人子どもセンターてんぼ
- ・プロジェクトの対象となる地域及び人々 家庭内に居場所を持たない神奈川県の子どもたち
- ・支援額 26,959 円 (全額店頭募金より)
- ・プロジェクトの概要

10 代後半の若者は法や制度の挟間におかれ、保護や支援が届きにくい現状にあります。てんぼは、居場所のない子どもの電話相談事業、シェルター事業、自立援助ホーム事業 (みずきの家) の 3 事業を運営し、緊急避難先や共同生活の場を確保し、子ども自身の選択による自立を支援しています。こうぼくは、2020 年度に実施団体の法人会員となり活動をサポートすることにしました。

#### 3) フェアトレード品の販売による支援

ジンジャーティ、コーヒー、オリーブ石鹸の 3 品目を取扱い、生産者グループの生計向上に寄与しました。新型コロナウイルス感染拡大で、仕入れや生産に大きな影響が出ました。

年間仕入額 計 170,299 円

- ・ジンジャーティ 生産者：フィリピン・ベンゲット州住民組織ウバパス・ダイヨコン・ランパダ  
仕入額 38,556 円 (昨年比 42.3%)  
「森育ちのしょうがパウダー」に名称変更しました。
- ・アシーラ石鹸 生産者：パレスチナ・アシーラ女性組合  
仕入額 29,956 円 (昨年仕入れなし)  
生産団体が解散、仕入れ元に在庫が有る限りの販売となりました。
- ・シサムコーヒー 生産者：フィリピン・CGN (コーディリエラ・グリーン・ネットワーク)  
仕入額 101,787 円 (昨年比 150.0%)

#### 4) キャンペーン

##### (1) 貧困なくそうキャンペーン 期間：10 月 26 日～10 月 31 日

WE21 ジャパングループと連携し「貧困撲滅目標」に特化したキャンペーンに取り組みました。今年は SDGs 目標 17 項目中の 1 番「貧困」と 5 番の「水問題」に焦点を当てました。店頭にはポスターを掲示し、また、支援している国内外の民際支援団体のプログラムで促進される SDGs 目標にコロナ禍が与えるダメージと各プログラムへの影響の現状をミニチラシにまとめ配布して来店者へ伝えました。

##### (2) チョコ募金キャンペーン 期間：12 月 10 日～2 月 10 日

コロナ禍でチョコ募金への協力が例年のように得られるか心配しましたが、地域の方からの協力や地域で活動する団体の方々に支えられました。毎年行っている報告会は行えませんでした。JIM-NET 主催のチョコ募金キックオフイベント(YouTube 配信)をボランティアで視聴し、イラクでの今年度の活動などについて学ぶ機会を持ってました。

カード含め 563 個分の募金 308,900 円と期間中の店頭募金 12,952 円、収益からの支援金 100,000 円 合計 421,852 円を JIM-NET に寄付できました。(先述、海外支援 (3))

##### (3) 「3.11 を忘れない」キャンペーン 3 月 11 日を中心に

東日本大震災・福島第一原発事故から 10 年となり、「3.11」につながる支援について、これまで行ってきた活動を振り返りました。また特に原発被災者救済のために継続する支援が大切であることを、支援先の「認定 NPO 法人いわき放射能市民測定室」の活動を紹介しながら、掲示物にまとめて来客に知らせました。3 月 11 日を中心に 311 円商品を販売して地域の方の関心を高めました。「たらちね」には収益より 250,000 円、店頭募金 11,292 円、合計 261,292 円を支援できました。「福島子ども・こらっせ神奈川」は夏の保養はコロナ感染防止のため中止となったため支援はできませんでした。(先述、国内支援 (3))

#### 5) 支援事業地訪問

新型コロナウイルス感染拡大の影響で国内外への移動が困難となり、支援事業地訪問はできませんでした。

## 6) 学習会・報告会の開催

- ・カンボジアの CAE の事業は、日本に留学中の代表を招いて帰国前に報告会を開催しました。  
(7/28 きくなみんなのひろばにて 参加者 6 名)
- ・イラク JIM-NET 主催のキックオフ集會に 11 月 6 日、オンライン参加しました。その後大倉山店(11/18)・日吉店(11/26)のボランティアミーティングでキックオフ集會のビデオを視聴しました。JIM-NET の活動やイラクでの活動を知ることができました。
- ・WE21 ジャパン青葉主催いわき放射能市民測定室たらちねの報告会に 2 月 6 日オンライン参加しました。

## III. この法人の事業の広報普及を図る事業

### 1) 会報・ニュースなど紙ベースの広報

会報を 6 月と 12 月に発行、会員以外にも広く両店で配布しました。生活クラブ菊名・港北コモンズ組合員 2,300 余名を対象にカタログ組み込み配布を、またチョコ募金協力個人・団体にも配布しました。また、運営委員会の様子を伝える紙面を 6 月、1 月、3 月に作成して会員に発信・郵送しました。

### 2) ホームページの運営

コロナ禍における事業運営、ショップ情報やイベントの告知を、来店時の注意などとともに掲載しました。

### 3) SNS・ブログの運営

フェイスブックでの情報発信に加え、新たにインスタグラムを開始しました。ショップブログでの情報発信も継続しました。Google マップの閲覧回数も継続してカウントしています。

## IV. 組織活動

### 1) 組織運営

(1) 会員 期首 57 名 期末 55 名 (入会 1 名、退会 3 名) 目標 65 人

(2) 参加型組織運営を継続、ボランティア・運営委員・マネージャーで運営しました。日吉店 10 周年記念事業は、実行委員 12 名 (ボランティア 8 名、マネージャー 2 名、運営委員 2 名) が中心となり企画運営実施しました。皆が参加し力を合わせることで楽しく生きいき活動できました。「こうほくの未来を考えるチーム」に新しくメンバーを募り、7 名 (運営委員 3 名、マネージャー 2 名、会員ボランティア 2 名) で毎月意見交換をしました (2 年目)。

ボランティアミーティング 大倉山店 11 月 18 日(水) 10 名

日吉店 11 月 26 日(木) 9 名

(3) 事務局体制

事務局長 1 名 (マネージャー兼任)、大倉山店 3 名、日吉店マネージャー 2 名

事務局会議を 2 回 (7 月・2 月) 開催しました。

### 2) 地域との交流

住みやすい地域づくりをめざす地域団体と連携・協力しました。

- ・「大倉山みんなの食堂」「きくなみんなの食堂」の食材寄付の窓口となり、広報・協力しました。
- ・チョコ募金を地域団体にもよびかけ、5 団体の協力を得ることができました。
- ・港北区寄り添い型生活支援事業ポートファミリー「くすの樹」に小学生衣類を寄付しました。

### 3) その他

- ・認定 NPO 法人として、より高い公益性を追求し、情報公開・適正な運営に努めました。
- ・WE21 ジャパングループのメンバーとして連携しました。
- ・ワーカーズコレクティブ協会からの依頼を受け、「就労準備実習生」を日吉店で受け入れました。
- ・積極的に寄付金を募ったところ、指定寄付 (寿町生活困難者、フィリピン、カンボジアの現地活動団に対して) と法人への寄付を多くの方からいただきました。